

更新日：2004年7月1日

インターナショナル・ポリオ・プラス委員会
ポリオの撲滅に関する現状および世界的活動における国際ロータリーの役割について

ロータリーの出版物情報の明確さおよび一貫性を維持するため、インターナショナル・ポリオ・プラス委員会は、ポリオ・プラス・プログラムおよび世界のポリオ撲滅活動に関して頻繁に報告される以下のような記述や統計、用語を採用し、ポリオ撲滅の世界のパートナー諸組織にも、同様の一貫した記述と統計を採用するよう奨励しています。委員会ではまた、これらの記述がロータリー内で広まることを求めています。委員会は各会合でこれらの声明を再検討し、これらが常に最新かつ適切なものとなるよう配慮しています。

1. ポリオ・プラスの目標に関して

「ポリオ・プラス・プログラムの目標は、ポリオ撲滅の世界証明の実現です。世界保健機関、世界証明委員会(Global Commission on Certification)、およびロータリーによると、「ポリオ撲滅」という言葉は、野生型ポリオ・ウイルスの伝播の抑制という意味で用いられています」

2. ポリオ撲滅活動における国際ロータリーの貢献に関して

「ポリオの撲滅が世界的に証明される頃には、ロータリーの世界ポリオ撲滅活動への寄付額は米貨6億ドルを上回る見込みです。これに加え、地元ロータリー・クラブや地区によって行われてきたポリオ撲滅活動のための現物拠出や個人寄付は、数百万ドルにも上ります。さらに意義深いことは、非常に大勢のボランティアのグループが国際ロータリーによって動員されていることです。数十万人のボランティアが地元レベルで、診療所を支援したり予防接種もしくはポリオの撲滅活動のために地域社会を動員しています。世界中で今日までに、百万人以上のロータリアンが、ポリオ撲滅の成功に向けて献身してきました。」

3. ポリオ・プラス補助金による受益国の数に関して

「今日までに、世界の122カ国がポリオ予防接種および撲滅活動のためのポリオ・プラス補助金の恩恵を受けています」

4. 予防接種によって年間に予防されているポリオの症例数に関して

「1988年に世界的な推進計画が開始されてから、2005年の撲滅目標までに、接種を受けていなければ麻痺に苦しんでいた可能性のあるかもしれない主に発展途上国の500万人の人々が、ポリオの予防接種を受けたおかげで現在歩いています。毎年、政府や世界保健機関(WHO)、国際ロータリー、国連児童基金(ユニセフ)、米国防疫センタ

更新日：2004年7月1日

ー (CDC) の協力活動や、寄付国の海外開発機関の活動などにより、50 万例のポリオの発症が防止されています」

5. **ポリオの予防接種を受けた子供の数に関して**

a. ローターリーがポリオ・プラス・プログラムを実施し始めた 1985 年以降、2003 年末まで

「国際ロータリーとその財団および我々の提携団体の活動の結果として、20 億人を超える子供たちが経口ポリオ・ワクチンの接種を受けました」

b. 2003 年の予防接種

「2003 年における世界的ポリオ撲滅活動の一環として、55 カ国で 4 億人以上の子供が予防接種を受け、20 億回分の経口ポリオ・ワクチンが使用されました」

6. **世界でポリオのない国々に住む子供たちの割合に関して**

「1988 年には、世界の子供のうち 10 パーセントがポリオのない国に住んでいました。しかし、2004 年 7 月 1 日現在、70 パーセント以上がポリオのない国に住んでいます」

7. **ポリオ発生件数の減少に関して**

「ロータリーがポリオ・プラス・プログラムを開始して以来、ポリオの症例は 99 パーセント減少しました」

8. **子供 1 人当たりのワクチンの費用に関して**

「わずか米貨 60 セントで、1 人の子供をポリオから守ることができるのです」

9. **ポリオ蔓延国の数に関して**

「ロータリーがポリオ・プラス・プログラムを開始して以来、ポリオ蔓延国の数は、1985 年の 125 カ国以上から 2003 年末の 6 カ国へと減少しました。ポリオの症例は、1985 年以来 99% 以上減少しています」

10. **2003 年における野生型ウイルスによる症例が地理的に限定されていることに関して**

更新日：2004年7月1日

2003年末には、6カ国を除くすべての国で野生型ポリオ・ウイルスによる感染が絶たれました。このうち、症例のおよそ90パーセントが、ナイジェリア、インドおよびパキスタン3カ国で見られています。

11. 独立委員会によってポリオがないと証明された国、領域および区域に住んでいる人の数とポリオのない国の数に関して

「現在、210の国、領域および区域が「ポリオのない地域」となり、その内134の国、領域および区域は独立委員会によりポリオ撲滅の証明を受けました。2002年に、WHOヨーロッパ地域でポリオ撲滅が証明され、WHO南北アメリカおよび西太平洋地域に加わりました。世界人口の半数である、30億人を超す人々が、ポリオのない134の国、領域および区域に住んでいます」

12. インドおよびナイジェリアにおけるポリオに関して

a. インドでは2003年の第4四半期に、ポリオはこれまでで最低の感染レベルに達しました。幼い子供たちや恵まれない人々(特にビハール、ウッタル・プラデーシュ、西ベンガルといった北部の州)に重点を置いて活動を続けていけば、2004年には感染をなくすことが可能です。特にウッタル・プラデーシュは、これまで感染が絶たれたことが一度もないただ1つの地域であるため、重要とみなされます。

b. ナイジェリアの世界的ポリオ撲滅推進計画において最も懸念されるのは、2003年および2004年のはじめに、カノ州でポリオ・キャンペーンが不十分であったり、主要な予防接種の実施が一時停止されたりしたことです。2003年末に最も危惧されたのは、北部の州(特にカノ州)で十分な経口ポリオワクチンの投与回数を受けた児童が、50パーセントにも満たなかったというデータでした。その後発生したポリオは、ナイジェリアのいくつかの州をはじめ、それまでポリオの存在しなかったアフリカの9カ国にも広がりました。

13. ポリオ感染の局地化に関して

2003年末には、6カ国を除くすべての国で野生型ポリオ・ウイルスによる感染が絶たれました。このうち、症例のおよそ90パーセントはナイジェリア、インドおよびパキスタン3カ国で見られました。

14. ポリオを撲滅するための寄付者の必要性を総合することに関して

2004-2008年長期計画として、2004年1月に世界ポリオ撲滅推進計画が開始されました。この長期計画を実施する上で、世界保健機関、ユニセフ、および各国の保健省は、野生型ポリオウイルスの伝播を絶つために、2004-2005年度中に米貨7億6,500万ドル

更新日：2004年7月1日

が必要であると推定しています。この7億6,500万ドルのうち、6億3,500万ドルは既に約束された寄付、あるいはこれまでの寄付者から期待できるものです。

追加の資金に関しては、各国政府および他の寄付者に支援を求めます。資金は、2006-2008年中の、撲滅の世界証明、ポリオ撲滅を支える構造基盤の確立、経口ポリオワクチンを停止するための不活性化ワクチンなどの製品の開発に必要とされます。この長期計画を予定通り実施するための費用を慎重に分析した後に、世界保健機関、ユニセフおよび各国保健省は、外部からの財政源の必要額を計算しました。

15. ロータリーの推進活動による寄付に関して

公共擁護活動：「1995年、国際ロータリーは、援助国政府に対してポリオ撲滅を唱導するための実行グループを創設しました。この実行グループ（後のポリオ撲滅提唱グループの一部）は、追加の協力者を得て、公的部門から現在までにポリオ撲滅のための米貨17億ドル以上の補助金を調達しました。これらの擁護活動は、既に開始されておりこれからも必要な限り続けられます」

16. パートナー/提携団体、主導パートナー、提携、寄付者などの語の定義は以下に概略する通りです。

「ポリオを撲滅するための活動も資金も共にしている組織を指す総称として使われる際、「パートナーないしパートナーシップ」という言葉が望まれます。一般的に言って、特定のグループを指すときは「提携 (coalition)」が使われるべきです。「寄付者 (Donor)」は、ポリオを撲滅するための資金を提供する人、団体、組織などを指す語で、それらの人、団体、組織などの第一義的または唯一の役割は資金を提供することだけに限定されるべきです。「寄付者 (Donor)」という語は、国際ロータリーまたはその財団を指す語としては避けるべきです」

「パートナー」という語が、世界のポリオ撲滅活動に従事している特定の組織を指して使われている場合、主導パートナー (spearheading Partners) とは、「世界保健機関 (WHO)」、「国際ロータリー (RI)」、「米国防疫センター (CDC)」、「国連児童基金 (UNICEF)」です」

「ロータリーの特筆すべき提携は、世界ポリオ撲滅活動において米国政府からの資金を一層増やすよう働きかけていることです。提携者は、国際ロータリーのロータリー財団、国連財団、The Task Force for Child Survival and Development (児童の生存と発達実行グループ)、米国ユニセフ基金、アメリカ小児科学会および March of Dimes Birth Defects Foundation (先天性障害者への募金マーチ) であり、ロータリーが主導的役割を担っています」

更新日：2004年7月1日

「ロータリーは、非政府組織としてはまさに主導的な寄付者です。ポリオ撲滅にかかる費用の大半は、可能な限り、ポリオ蔓延国が自ら負担するようにしていますが、ポリオとの闘いが、世界でも非常に貧困な国、開発途上国や、内戦のただ中にある国で行われるような場合は、全国予防接種日(NID)の活動やその他のポリオ撲滅活動の費用を、場合によっては全額、外部の寄付者からの資金で賄わねばなりません」

「ポリオ撲滅のための大口寄付は各国政府から寄せられています。これらは、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、カナダ、デンマーク、フィンランド、フランス、アイルランド、ドイツ、イタリア、日本、ルクセンブルグ、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、オマーン、ロシア連邦、サウジアラビア、スイス、台湾、アラブ首長国連邦、英国、米国の各国です」

17. 世界的証明に関して

「世界的証明:質の高い監視活動の下で、野生型ウイルスによる症例が最低3年間発生せず、野生型脊髄性小児麻痺ウイルスが完全に封じ込まれた場合、独立委員会が世界的証明を検討します」

18. ポリオ予防接種の停止に関して

「野生型ポリオ・ウイルスの感染が中断された後、適切なポリオ・ウイルスの封じ込み、貯蔵、定期的な経口ポリオ・ワクチン予防接種は停止され、大幅に経費が削減されます(注:具体的にどの程度の削減がもたらされるかは、各国がIPV, すなわち不活化ワクチンを導入に踏み込むかどうかによって決まる)」

19. 予防接種中止後、世界が節約できる年間経費の推定弓削に関して

「一旦ポリオが撲滅されたなら、ポリオの治療やリハビリに費やされてきた費用は過去のものとなり、世界は財政的にも、また人道面からみても、多大な恩恵を受けることとなります。それぞれの国がポリオ・ワクチンの使用に対しどのような決定を下すかによって、節約額は年間に米貨10億ドルを上回る可能性もあります」

20. 米国の子供たちを対象としたポリオ予防接種実施の年間費用に関して

「米国防疫センター(CDC)は、米国の子供たちを対象としたポリオ予防接種の実施に、年間約3億5,000万ドルが費やされるものと推定しています」

21. 第2種野生型ポリオ・ウイルスに関して

「第2種野生型ポリオ・ウイルスは、1999年10月以来見つかっていません。これは、3種類の野生型ポリオ・ウイルス中の1種が断たれたことを示唆しています」

更新日：2004年7月1日

22. ポリオ・ウイルスの流入に関して

2003 - 04 年度、それまでポリオのなかった国々に野生型ポリオ・ウイルスが持ち込まれ、60 以上のポリオの症例が見られました。これらのほとんどは、ナイジェリア北部で発生した野生型ポリオ・ウイルスと関連していました。

23. ワクチンに由来するポリオに関して

「2000 年から 2003 年半ばまでに、ワクチン由来のポリオ・ウイルスによる症状が 3 件発生し、同種ウイルスの感染により、ハイチ、ドミニカ共和国、フィリピン、およびマダガスカルで 28 件のポリオ症例が出ました。その後、このような症例は発覚していません」

24. ポリオ全国接種日中のビタミン A の配給に関して

「1998 年以来、NID にビタミン A の補給を加えることで、推定 125 万人の子供の命が救われました」

委員会は、事務総長が公式発表や声明において上記のような表現を用いることを要請していません。最後に、委員会は、国際ロータリーおよび財団の職員やスポークスパーソン、ならびに委員会に報告を行う関係にある全ての組織が、この承認された声明に依拠し、推奨用語を用いるよう要請しています。